北九州市立石峯中学校

【学校ホームページアドレス】
www.kita9.ed.jp/ishimine-j

ジャガイモ

校長通信　No.１３１

平成３０年　１月１２日

「 一年の計とプラスの魔法 」

校長　江　口　　満

新しい学期を迎えました。生徒の皆さん、明けましておめでとうございます。保護者や地域の皆様におかれましては、平素からのご厚情に感謝申し上げるとともにご健康をお祈り申し上げます。本年も教職員一丸となって本校教育に邁進していく所存でありますので、支援の程よろしくお願い申し上げます。

さて、今年は戌年です。世界的には人と動物の共生で最も古いのは、犬の祖先であるオオカミとの共生で、約３万年前にはじまったと考えられているそうです。日本における動物との関わりにおいても、約１万年前の縄文時代に犬が唯一の家畜として、縄文人と共に広く生存していたのが始まりと考えられています。このように犬は、古来から人間に大変馴染みがあり、私たちの生活にも大変密着しています。

また、犬に関係する故事、ことわざもたくさんあります。「犬が西向きゃ尾は東（あたりまえのたとえ）」「犬猿の仲（仲の悪いことのたとえ）」「犬は三日飼えば三年恩を忘れぬ（すぐに恩を忘れるようでは犬にも劣るというたとえ）」などが有名ですね。「犬も歩けば棒に当たる」ということわざもあります。「犬も黙ってじっとしていればいいのにあちらこちらうろつくから、人間の振りまわす棒に当たってたたかれる羽目になるの意で、本来は出しゃばると思わぬ災難に遭うの意」だったものが変化して、現在は「何もせずじっとしているより、何でもいいからやってみれば、思わぬ幸運にめぐり合うかもしれないということの意」に転じたそうです。戌年の私も、この故事に習い、じっとせずに、とにかく一歩を踏み出そうと思います。

新生徒会スローガン「協友」

【趣旨】全学年、助け合い、協力し合い、友としてお互いを高め合うため。そして、これまでの伝統を受け継ぎ、発展させ、共有していくため。

「一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり」と言われます。私も１０代の頃、元旦に「一年の計」を立て、「今年こそは毎日日記を書こう」とか「毎日ジョギングをしよう」と決意したことがありました。しかし、正月三箇日は何とか実行するのですが、その後いっこうに筆が進まずその日記帳を見て見ぬふりをしたり、走らないための言い訳ばかりを考えていました。

しかし現在、歳四十にして決意したジョギングだけは、なんとか達成・継続している計です。そのお陰で多くの友人や大自然と出会えるという幸運にめぐり合えました。大切なことは、「できなかったらどうしよう」とあまり考えず、まず思いつくままに何でもいいからやってみることです。たとえ三日坊主の日記帳でも、３日間の記録は確実に残っているのだし、また次の年、４日目から続きを書くという幸運にめぐり合えるかもしれないのです。

11月14日（火）生徒会新旧交代式で、生徒会長Ｈくんが「今年一年間、3年生は『去年をこえる』ということを目標に、一つ一つの行事を成功させようと頑張ってきました。みんなに沢山支えられ、本当にいい仲間と共に一年間活動ができたなと思います。そして、僕たちが先輩方から受け取り、伝えたであろう伝統を、これから発展させ、よりよい石峯中学校をつくるリーダーとして頑張ってほしいと思います。これまで一年間、第70代生徒会に協力していただき、本当にありがとうございました。」と締めくくってくれました。新執行部は、君たちが進化させた伝統を受け継ぎ飛躍させます！

【上】新旧交代式で引き継がれた「つながるプロジェクト」の幟と調理部エプロン。新生徒会執行部は、2月朝倉市黒川地区視察に向けた第一歩を踏み出した！

１月９日(火)の始業式では、生徒の皆さんと、J:COMで報道された「第３回つながるプロジェクトバザー」の様子や「二條実穂選手リオパラリンピック報告会」の様子を観ながら、昨年、創立７１周年の進化の年を振り返りました。そして今年の「飛躍の年」に、何を決意し、自分の「一年の計」をいかに立てるのか？を考えました。

まず３年生の皆さんは、進路に向かって、どのような「一年の計」を立てたでしょうか。今後始まる高校入試対策の面接練習で「一年の計」を聞いてみようと思います。想像するだけで楽しみになります。

例えば、校長室のドアがノックされ、３年生の面接の練習の始まる。「どうぞ。」「失礼します。」緊張した顔、顔、顔。日頃の元気な顔が固まり、笑顔が引きつり、マジな表情を見て、思わず心が温かくなる。「志望動機」「中学校の思い出」「石峯中学校のよい所」「部活動で学んだこと」「高校での抱負」「将来の夢」「座右の銘」「自己アピール」次々に質問しながら、「〇〇くんは、こんなにも熱かったんだ」「〇〇さんは、この高校への思いがこんなにも強いんだ」私にとって、生徒の新たな一面に触れることができる貴重な時間。「面接は、高校生活での頑張りを宣言する所です。志願する高校への熱き思いを、自分の言葉でありのままに伝えればよいのです」と元気づけよう。

そして必ず「中学校時代の苦手な教科があったら教えてください。」と問う。初めての生徒は、「数学です。」「英語です。」などと答える。「面接で、苦手な教科を答えるということは、自分のマイナスを言うことになりますね。その時、そのマイナスに『プラスの魔法』をそっとかけ、答えてみてください。」練習を重ねていくと、「英語が苦手でした。入試に向け、現在、単語や基本英文を復習しています。高校に入学したら一生懸命に勉強して、英語を、必ず、得意教科にします！」と宣言するようになる。ここまでくると、面接練習も合格。

【上】11月12日(日)若松区新人バレーボール大会で見事優勝した女子バレー部の皆さん。12月25日(月)の市内大会予選リーグで惜敗しましたが、7月の夏季大会での飛躍を誓いました。

人は、この自分に「克つ」ことが一番難しいのかもしれない。ゲームやテレビなどの誘惑もある。「これが限界」と自分勝手に決めてしまうこともある。その時、自分の口からプラス方向の言葉を発してみる。この「プラスの魔法」には、必ず、自分の意志の弱さを克服する力があると思う。

いかがでしょうか。そして、３年生の伝統を受け継ぎ、「飛躍の年」に第一歩を踏み出した１、２年生の皆さんの「一年の計」は何でしょうか。**私の「一年の計」は、『この飛躍の年、１、２年生の皆さん、先生方と力を合わせて、石峯中学校のよさを、この若松の地から、北九州市内外に広く発信する一年にする！』です。そのために、皆さんと総力を結集して、まずは思いつくままに、行動を開始します！**

【右上】11月3日の文化祭に展示した作品と一緒に笑顔の美術部の皆さん。
【左】10月21日(土)若松区新人剣道大会では、女子団体準優勝！11月11日(土)に行われた市内剣道大会熱戦の様子。7月の夏季大会に向け雪辱を誓った女子剣道部の皆さん。